

# 図書館だより



6月号

2023年6月15日  
安田小学校図書館

## ■図鑑はおもしろいね

3年生が図鑑の使い方を学習しました。目次とさくいんの使い分けを復習したあと、写真に写った生き物や植物を調べてみました。

最初に「これはコアラかカンガルーだと思ふよ。」「サルじゃないかな?」とペアで相談しながら見当をつけ、その後、特徴を考えながら写真と見くらべました。図鑑で同じものが見つかる、思わず「あったー!」と声をあげてしまう児童もいました。インターネットで検索をすればすぐに答えが出てくるかもしれませんが、すぐに答えが出ない図鑑の前に、児童は「なにかな」「どこかな」と想像力を働かせることを楽しんでいるようでした。

図鑑は図書館で人気がある資料の一つですが、図鑑を繰り返し見ること、その分野の知識の基礎を身につけることができます。同じ図鑑を繰り返し借りる児童の話や驚くほど詳しい説明をしてもらえることがありますし、本人も喜んで学んでいるのが伝わってきます。この学習を糸口にして、そんな児童が増えてくれると嬉しいです。



## 保護者の皆様へ「読み聞かせで橋を架ける」

1年生の教室から、詩を音読する元気な声が聞こえてきます。小学生は、目から、耳から、どんどん新しい言葉を吸収していきます。美しい言葉にたくさん触れてほしいものです。ただ、言葉をたくさん吸収することと、文をすらすらと理解できることは同じではありません。子どもと本を結ぶ活動を長く続けてこられた尾野美千代さんは、著書の中で「5歳にもなれば、心の機微も感じ取れるようになり、「理解力」はほとんど一人前と言えるでしょう。読み聞かせてやれば10分ぐらいの物語も楽しめます。けれども、その同じ物語を自分で読みこなせるようになるのは、まだまだ先のことです。文章を読んで内容を把握する「読解力」は、時間をかけて習得しなければならないのです。」と書かれています。そして、大人が読み聞かせをすることで「理解力」と「読解力」の溝に橋を架けることができるのだ、とも言われています。

朝読書でも、隣に座り、小さな声で読み聞かせをすることがあります。耳から聞くことで、どの子も短い時間ですっと本の中に入ることができます。だれかに読んでもらうことで、文字をひろい、文章として理解するという苦勞をせず、全力で想像の世界に飛び込むことができるのでしょう。その想像の世界にすっぽりと包み込まれる感覚こそが物語の楽しさの本質だと思います。

本を読んでもらった、絵本や物語は楽しい、自分でも読んでみたい。子どもたちがそう思えるよう、家でも学校でも大人がたくさん橋を架けてあげられるといいなと思います。

## なになに、どんな本?

どう読むの?どんなおはなし?思わず読み返してしまう  
ふしぎな題名の本を集めました。

### 低学年

#### 『だくちるだくちる』

V・ベレストフ/原案 阪田寛夫/文 長新太/絵  
福音館書店



「にんげんが うまれる  
ずっと ずーっとまえのま  
え」イグアノドン、自分以  
外、誰にもあったことがなく  
てさびしかった。そこにあら  
われたのは小さな翼竜の  
プテロダクチルス。火山が  
爆発する音しか知らなかつ  
たイグアノドンの初めての  
友だち。

#### 『なずず このっぺ?』

カーソン・エリス/作 アーサー・ビナード/訳  
フレーベル館



野原に出てきた一本の  
芽。そこに虫たちが集まっ  
て話し始めます。「なずず  
このっぺ?」「プクロニ お  
げむん。」「わっぼど が  
ららん。」「なやま プクロ  
ニ?」最初から最後まで  
何を話しているかちつと  
もわからないけれど、とに  
かく楽しい絵本です。声  
に出して読みたい一さつ。

### 中学年

#### 『みしのたくかにと』

松岡享子/作 大社玲子/絵 こぐま社



ふとっちょのおばさん  
が、ひろったタネを植え  
ました。スイカかな、ア  
サガオかな。そこにとお  
りかかったのは、勉強  
のしすぎで顔色の悪い  
王子さま。王子さまは  
畑の立てふだを読みま  
した。「みしのたくかに  
と」。

### 高学年

#### 『かはたれ』

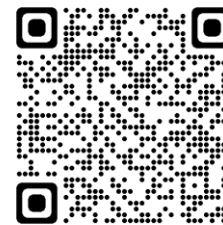
朽木祥/作 山内ふじ江/画 福音館書店



ひとりぼっちで暮らす河童  
(かっぱ)「八寸」は、修行  
のために猫に化け、人間の  
町で暮らすことになった。そ  
こで出会った少女麻は、母  
親を亡くしたばかりで、悲  
しみで自分の気持ちすらは  
つきりつかめない日々を  
送っていた。河童と少女、寂  
しい二人の静かな友情物  
語。

第69回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書  
が選定されました。低・中・高学年に分かれて各4さつづ  
つとなっています。学校図書館に1さつずつありますので、  
表紙やあらすじでいいなと思うものがあれば、読んでみ  
てください。最初からこの本で書く、と決めてしまうので  
はなく、何さつも読んでいくなかで「これで感想文が書き  
たい」と思える本に出合えるといいですね。

出品の詳しい説明は、後日「夏休みコンクール(お知らせ)  
せ)」のプリントが配られますので、そちらをご覧ください。



公式サイトは  
こちらから